

知多半島ケーブルネットワークコミュニティ誌 [ココナッツクラブ]

COCONUTS CLUB

June 2022 6

風景印の旅



小さな円の中に地域の自慢を盛り込んだ風景印。郵便趣味の一ジャンルとして根強い人気があるが、知らない人も多いのではないだろうか。この機会に郵便局を巡って、集めてみてはいかがだろう。



町の特色や歴史が見えてくる

風景印は消印の一種である。消印とは、はがきや切手の料金が支払い済みであることを示し、再利用できないように押されたスタンプのこと。それに郵便局所在地の風景、名所、名物など地域性に富んだ絵を入れたのが風景印だ。単なる記念スタンプではなくあくまで消印なので、押印してもらうには六十円以上のはがきまたは切手が必要となる。

現在、全国に郵便局は約二万四千局があり、そのうち約二万二千局に風景印が設置されている。次のページは、本誌エリアの常滑市・武豊町・美浜町・南知多町で使用されている全ての風景印だ。誰でも知っているものから地元の人しか知らないようなものまでバラエティに富んだ図案と、局名と押印日が必ず入っているところが最大の魅力。基本形は直径三十六ミリの円形だが、そのサイズから大きく逸脱しなければイレギュラーな形も認められてい

る。何が描かれているのか、どのような意図でそのデザインを採用したのか、それを読み解くのも楽しい。風景印の制度が定められたのは昭和六年（一九三一）で、富士山郵便局と富士山北郵便局で使用されたのが最初。知多半島では昭和九年（一九三四）に内海郵便局で使用開始されたのを皮切りに、野間、龜崎（現半田亀崎）、尾張大野、篠島（現南知多篠島）、半田の各郵便局が相次いで導入した。その後、戦時体制下の影響で昭和十五年（一



四)には常滑陶芸研究所と鎌倉時代の灰釉三耳壺(かいろうさんじゆ)の花器をあし



九年(一九七四)には常滑陶芸研究所と鎌倉時代の灰釉三耳壺(かいろうさんじゆ)の花器をあし

九四〇)に使用が一旦中止されるが、戦後の昭和二十三年(一九四八)から再開。知多半島では、最初に風景印を使い始めた内海郵便局がまたも先陣を切り、昭和二十七年(一九五二)に図案を一新して復活させた。この局の風景印は他局と比べてレトロな雰囲気を持っているが、これは当時のデザインを今も変えずに使用しているからで、創始の誇りを感じる。

風景印を入手するのにも若干の

珍しいといえは中部国際郵便局は、風景印はもとより存在自体が珍しい局である。セントレアの貨物地区にあるこの局は、セントレアを経由する国際郵便を専門に扱う特殊な郵便局で、国際郵便局を名乗るのは東京国際と大阪国際、そしてこの三局しかない。



らったものに変更された。さらに平成十七年(二〇〇五)には、セントレアの開港に合わせて現行のデザインになっている。

武豊郵便局の初代風景印には武豊港のタンカー、武豊火力発電所、富貴白山社のクロガネモチが盛り込まれていたが、平成十一年(一九九九)に登場した二代目には、竜宮伝説をモチーフにした武豊町のキャラクターマーク「ゆめたろう」が

使い継がれる昔の局舎

美浜町の五局のうち四局には国の天然記念物に指定されている「鵜の山ウ繁殖地」のカワウが描かれている。古くから美浜町のシンボル

手間を要する。所在地は一般の車が進入できないエリアなので、第1ターミナルビルから二十数分かけて歩いて行かねばならない。局舎は一

般の郵便局とはまったく異なり、巨大倉庫さながら。到着したら、入口で警備員に風景印がほしい旨を告げ、名簿に名前を記入してから局内へ。指示通りに二階へ上がり小さな事務スペースに入ると、局員がすぐにやってくる。はがきを渡すと、局員はそれを持って一旦退出。二分ほど待つと戻ってきて、押印したはがきを渡してくれる。実際行くとなると少し面倒ではあるが、警備員も局員も対応には慣れているようで、手続きは至ってスムーズだ。貨物地区を歩くのも珍しい経験だろう。

知多半島で二番目に風景印が設

存在として知られてきたので、描かれるのも当然だろう。唯一の例外は、野間大坊の源義朝墓と野間海岸をデザインした野間郵便局の風景印だ。これは、四局が昭和五十年代に設置したのに対し、野間郵便局だけ昭和二十八年(一九五三)と他局に先駆けて設置したことによるもの。当時はまだ美浜町はなく、鵜の山は知多郡小鈴谷町に属していた。

大坊、灯台、海水浴場を抱える野間は、早くから知多半島を代表する観光地として知られてきた。先述のとおり戦前にも風景印があり、戦後も内海郵便局、日間賀郵便局に次ぐ早い時期に作られたのは三代目局長の森田定吉。明治十二年(一八七九)生まれの定吉は十六歳のときから郵便局に勤務し、のちに知多郡会議員や野間村長を務めた地元の名士で、また、若い頃から日本画を描くなど芸術の才能もあった。



朱泥急須、製陶工場、中部国際空港

登窯、朱泥急須、灰釉三筋壺、市の木クロマツ

高讃寺山門と木造仁王像

常滑焼の壺、製陶工場

大野海水浴場、呼吸千里の碑、齊年寺所蔵「慧可断臂図」

酒造り風景、常滑マリーナ、多賀神社のオガタマノキ

旅客機と地球

飛行機の窓から眺める中部国際空港

ゆめたろう

吉町田湿地

衣浦港のヨット、教福寺のウバメガシ

坂井海水浴場、宝珠院のクロマツ

鵜ノ山のウ、三河湾の風景、みかん

鵜ノ山のウ、神武祭の山車、伊勢湾の風景

鵜ノ山のウ、野間埼灯台、大御堂寺の梵鐘

鵜ノ山のウ、河和口海水浴場、みかん

大御堂寺の源義朝墓、野間海水浴場

千鳥ヶ浜、礫ヶ浦

豊浜鯛まつり、荒磯の松、貝塚

師崎港とフェリー、左義長、ウバメガシ

聖崎の釣り人、ピワ

岩屋寺の金銅法具、山海海水浴場とドルフィンタワー

篠島漁港、万葉公園の歌碑と燈明台モニュメント

海水浴場、タコ



地域のシンボルを描く風景印、 地域のシンボルとしての郵便局。

置されたのは、おそらく定吉の郷土愛と芸術家としての感性が、風景印という様式にフィットしたからだろう。そして戦後、四代目局長に就任した息子の治男は、父定吉の思いを受け継いで風景印を復活させたのである。

その野間郵便局の横には昭和レトロな木造建築が残っており、こちらにも注目したい。これは、定吉が局長だった昭和六年（一九三二）に建築され、昭和五十三年（一九七八）まで使用された旧局舎だ。絵を得意とした定吉が自ら設計し、野間村の大工杉浦定次郎が施工した。戦前の局舎建築が旧状をよく留めた状態で残っている例は珍しい。

建物は洋風で、屋根に取り付けられた「ドーマー」と呼ばれる洒落た三角の飾り窓が印象的だ。玄関の扉には「T」マークがあらわされており、これもなかなかのインパクト。館内に入ると、昔のカウンターや「公衆電話室」と記された扉、局内の一角に設けられた局長室、集配局時代に使われた郵便物の発着

室、局員の休憩室などがそのまま残っている。

この建物の所有者で、五代目局長を務めていた治男の三女にあたる森田香子さんによると、隣に現局舎を新築したのちは、長らく倉庫として使っていたという。郵便局の移転後に老朽化した旧局舎が撤去されることは多いが、ここでは取り壊しの話は出なかったようだ。郵便局に対する治男の強い思い入りが窺える。

旧局舎が初めて世間に注目されたのは平成十七年（二〇〇五）、小野浦に美術館を開いていた画家のティレク&ティレク夫妻がこの建物を気に入り「五大陸絵画の旅展」を開催したのがきっかけ。その後、名古屋市立大学教授で建築学者の瀬口哲夫さんが研究誌などで紹介したことから保存活用の機運が高まり、平成二十七年（二〇一五）には美浜町初の登録有形文化財になる。その年、地元の若手を中心とした有志グループが町歩きイベント「古民家WALK」を開催し、

日、緑丘小学校校区を南北に縦断する道沿いの現在地に移転した。現在の風景印のデザインは、局舎移転を機に変更したものである。

左の旧デザインは、木々が生い茂る沓田湿地を遠景に配し、二種類の食虫植物の間をハッチョウトンボが飛ぶところを描いており、風景印としてはオーソドックスな部類に入る。これは、局員が描き起こしたラフデザイン



をもとに、

当時の郵政省の担当部局が作ったものと思われる。

かたやP.04に掲載した新しい風景印は、なかなか迫力あるデザインだ。円形の三分の一ほどを占めるハッチョウトンボは、網の目のような翅脈が描かれ、大きな目玉もかなりリアル。その右はシロバナナガバノイシモチソウ、左はヒメミミカキグサで、どちらも植物図鑑の絵のように細部まで丁寧に表現されている。

ここを散策拠点として利用したことで地元の人以外にも存在が知られるようになった。昨年からは、幕末の漂流民・音吉など郷土の歴史を学ぶ「潮騒令和塾」も開催されている。コロナ禍でまた活動に制限はあるが、今後も旧局舎は積極的に活用されていきそうだ。

郵便物に押印される風景印は、言ってみれば地域の魅力の発信ツール。旧局舎を核にした地域づくり活動と情報発信も、根底にあるものは同じである。

風景印が誘う地元の名所

一方、知多半島でもっとも新しい風景印を使用しているのは、武豊六貫山郵便局だ。この局は古くから「六貫山」と呼ばれてきた武豊町西部の丘陵地に位置する。宅地開発の進展で人口が急増したのを受け、昭和四十八年（一九七三）に開局。以前は三百メートルほど離れた場所にあったが、道路の拡幅工事に伴い令和三年（二〇二二）一月十八

また、上にあしらわれた可憐なウメバチソウもいいアクセントになっている。小さい円の中に何をどんな配分で盛り込むかはデザイナーの腕の見せどころ。全体的なバランスもよいこの風景印は、極めて秀逸と言えるのではないだろうか。

手掛けたのは、局長の尾上紀元さんの娘で二十二歳の楓音さん。小さい頃からアートが好きで、LIXILが主催する「光るどろだんご全国大会2019」で優秀賞を受賞した経験もあるとか。この図案は、小さい頃に親子で見学に行ったときの印象が元になっているという。「この風景印を通じて、少しでも壺町田湿地のことを知ってもらえると嬉しいですね」と尾上さんは話す。

風景印は収集するのも楽しいが、押印して郵便物を出せば地元でのPRにもなる。郵便物を出す際は、窓口に行つて「風景印を押して出してください」と依頼してみてください。

わが町の誇るべき宝よ、日本全国に届け！

JP POST 郵便局

